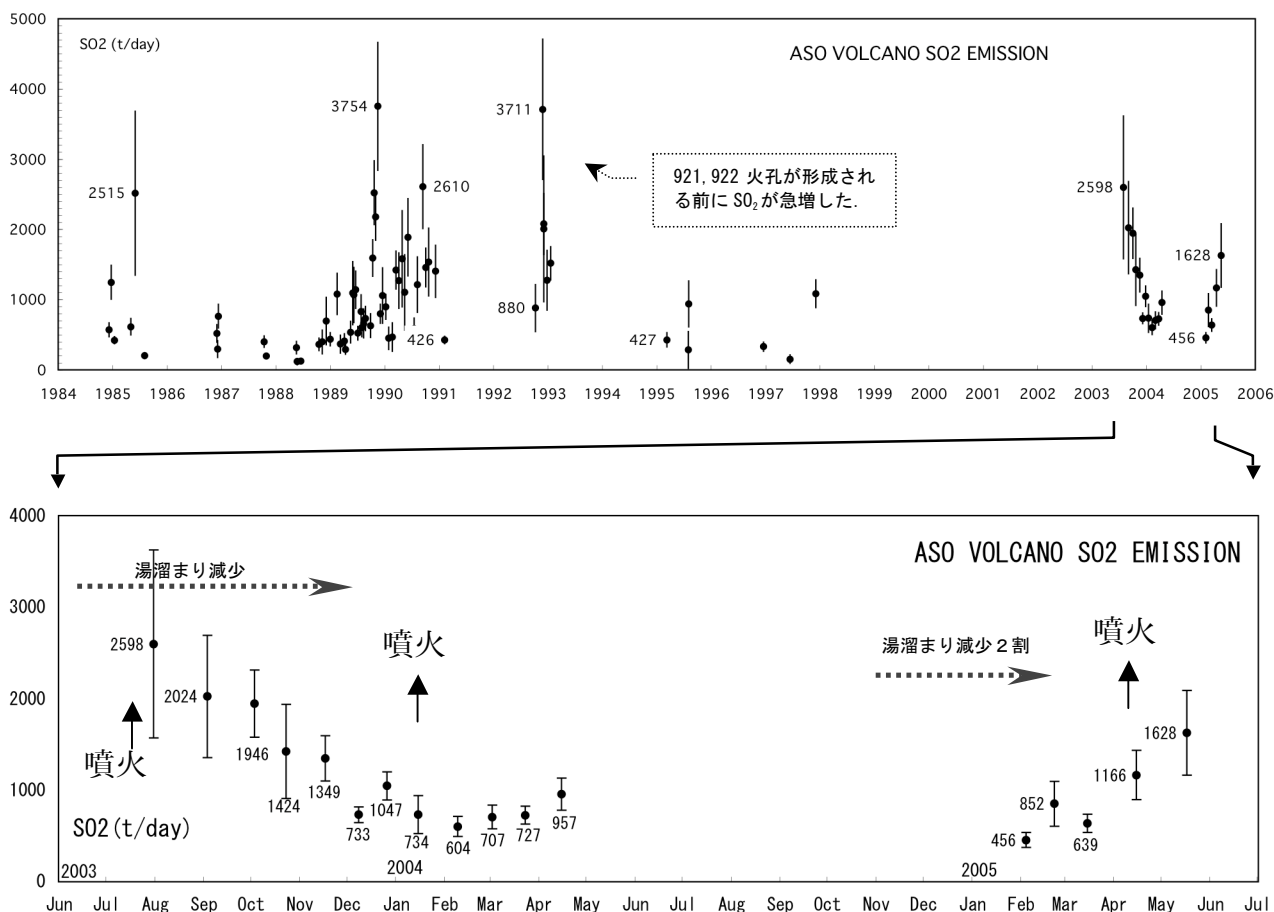


阿蘇火山の二酸化硫黄放出量

九州大学地震火山観測研究センター*



阿蘇火山の二酸化硫黄放出量は、火山活動と密接に関連して変化している。噴火期間中は 2000 ton/day を超えるが、静穏期には 500 ton/day 以下である。また二酸化硫黄放出量の変化は、火山の表面活動に先行して現れることが多い。

2003 年 7 月 10 日の火山灰噴出以降、火山活動が活発になり、それに対応して 7 月 31 日には 2598 ± 1026 ton/day の高放出量が記録され、これは 1989 年の活動期や 1992 年 11 月の火孔の開孔前と同等レベルである。

その後は徐々に二酸化硫黄放出量は減少し、2005 年 2 月は 456 ton/day まで低下したが、それ以降は逆に増加傾向にあり、5 月 17 日の測定では 1628 ± 462 ton/day と高レベルの放出量となっている。中岳火口内では湯溜まりの減少や火山活動の活発化が見られており、二酸化硫黄放出量の増加傾向と調和的である。

* 齊藤政城・松尾綱道・松島 健・清水 洋・福井理作・太田一也